

給食の放射性物質測定の結果について

○給食提供年月日 平成23年12月9日（金）

【検査結果の表示方法】

- 検出された場合には、その測定値を表示しています。
- 「<0.0」と表記しているのは、検出下限値（検出できる最小の値）未満であることを表しています。（例えば、「<1.2」とは、放射性物質の値が、0から1.2未満の範囲内です。）
- 検出下限値は、検査対象の給食の内容（水分の比率等）や自然界に存在する他の放射性物質（主にはカリウム40）の含有量等によって変動するため、検体ごとに数値が変わります。

【検査結果】

【調理済み給食】

施設名	献立	測定結果 単位：Bq/kg		
		放射性 ヨウ素-131	放射性 セシウム-134	放射性 セシウム-137
本郷保育園	筑前ごはん、すまし汁、白身魚の磯部揚、白菜のごま煮、ミニトマト、みかん、かぼちゃ蒸しパン、牛乳	<0.7	0.9	1.0
向丘保育園	筑前ごはん、すまし汁、白身魚の磯部揚、白菜のごま煮、ミニトマト、みかん、ココアマドレーヌ、牛乳	<0.7	0.7	0.7
根津保育園	フランスパン、生鮭のコーンマヨネーズ焼き、キャベツのカレーソテー、とろみスープ、ラフランス、野菜バー（おやつ）、牛乳、豆乳、ゴマチーズスティック	<1.1	<1.0	<1.1
慈愛会保育園	二色丼、すまし汁、豆乳煮込、里芋の揚げ出し、みかん、牛乳、炊き込みご飯	<1.0	<1.0	<1.2
たんぼぼ保育園	発芽玄米ご飯、かき玉汁、生鮭のちゃんちゃん焼、白いんげん豆の煮豆、スティックきゅうり、みかん、牛乳、五平もち	<1.0	<1.0	<1.0
こころの保育園文京西片	ごはん、手作りふりかけ、かぶのみそ汁、しゅうまい、切り干し大根の煮物、みかん、牛乳、ヨーグルトパフェ	<1.0	<1.0	<1.3
湯島小学校	ごはん、魚の照り焼き、千草和え、みそ汁、牛乳	<1.0	<1.2	<0.9

誠之小学校	ごはん、三鮮豆腐、三色ナムル、目玉焼きゼリー、牛乳	<1.0	<0.9	<1.2
根津小学校	フレンチトースト、とり肉のトマトシチュー、くだもの、牛乳	<0.9	<1.3	<1.3
本郷小学校	麻婆豆腐丼、春雨サラダ、くだもの、牛乳	<1.0	<1.1	<1.3
第六中学校	金時ごはん、魚朝鮮風味噌焼き、野菜煮物、すまし汁、牛乳	<1.0	<1.1	<1.1
本郷台中学校	エビピラフ、トマトシチュー、くだもの、牛乳	<1.0	<0.9	<1.0

【牛乳】

施設名	測定結果 単位：Bq/kg		
	放射性 ヨウ素-131	放射性 セシウム-134	放射性 セシウム-137
根津保育園	<0.8	<1.0	<0.9
慈愛会保育園	<0.8	0.9	1.1
たんぽぽ保育園	<1.0	<0.8	<0.9
こころの保育園文京西片	<1.1	<1.0	<1.0

【今回の調理済み給食の測定値を基に年間累積放射線量を計算してみると】

検出された施設（保育園）の給食（セシウム 134 が 0.9Bq/kg、セシウム 137 が 1.0Bq/kg）の例で、一食当たりの実効線量は、 $0.0117\mu\text{Sv}$ となります。

この給食を 1 日 3 食、一年間摂取したと仮定した場合の食品による年間累積放射線量は、 $0.0117\mu\text{Sv} \times 3 \text{食} \times 365 \text{日} = 12.8115\mu\text{Sv} \approx 0.0128\text{mSv}$ （注） となります。

この値は、厚生労働省が食品の規制値の見直し基準として示している年間 1 mSv と比較して、極めて低い数値です。

（注） $1\text{mSv} = 1000\mu\text{Sv}$

（参考）給食 1 食分の内部被ばくの実効線量は、国際放射線防護委員会が示す実効線量係数から算出しています。

ベクレル（Bq）は、放射能の強さを計る単位で、シーベルト（Sv）は、人間が放射線を受けた場合の影響を示す単位です。

現在の食品に関する暫定規制値は、放射性セシウムで年間 5 ミリシーベルトを基準に設定されています。この暫定規制値については厚生労働省から、年間 1 ミリシーベルトを基本に設定を見直す方向性が示されています。